

季刊

社会福祉法人
名古屋市総合リハビリテーション事業団

オレンジロード

ORANGE ROAD

2022年
冬号
vol.31

INDEX

- ◆ニューロリハビリテーション外来開設
- ◆東京オリンピック・パラリンピック
競技大会組織委員会帰任報告
- ◆自立支援部オンライン説明会
- ◆思いの丈をYouTubeにのせて
- ◆リハビリテーション研究基金
助成事業の成果について
- ◆募集・事業所案内

事業団公式マスコットキャラクター
りはみん



発行：季刊オレンジロード編集委員会



ニューロリハビリテーション 外来開設

2021年10月1日より、ニューロリハビリテーション外来を開設しました。開設にあたり、当附属病院で実施している「ニューロリハビリテーション」についてご紹介します。

ニューロリハビリテーションとは…

脳卒中後には手や足が動かなくなる「運動麻痺」が生じることがあり、日常生活の動作に大きな影響が出ます。これまでは、脳卒中により一度損傷した脳は時間が経つと変化しない(回復しない)といわれていました。しかし、昨今では脳科学研究が進歩し、脳には変化する(回復する)可能性があることが証明されてきており、このような脳科学に基づく治療のことを総称して「ニューロリハビリテーション」といいます。

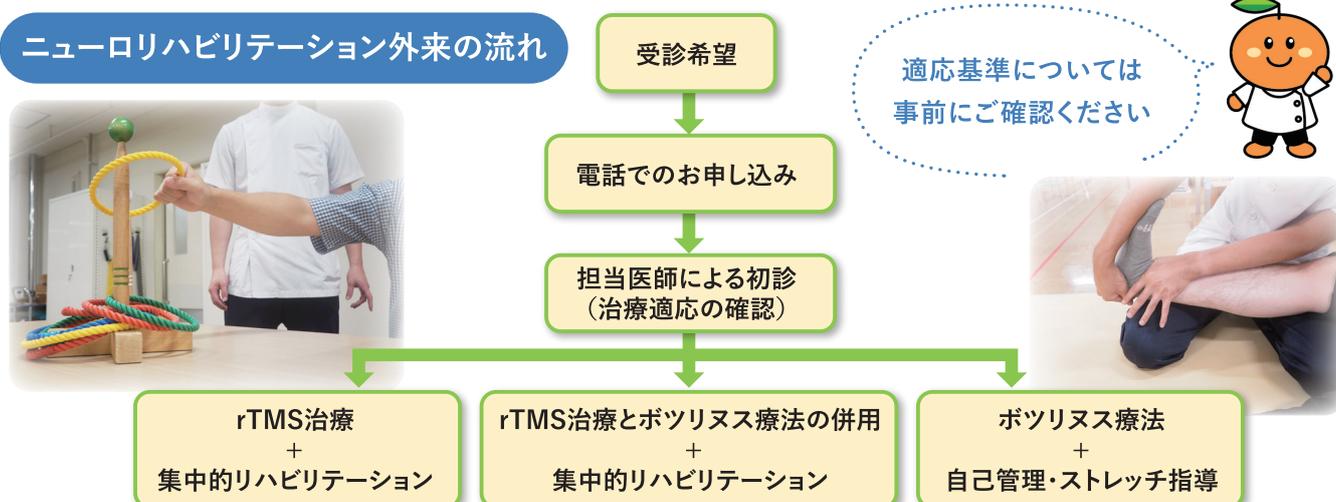
当附属病院でのニューロリハビリテーション

① 反復性経頭蓋磁気刺激(rTMS)治療:特殊なコイルを用いて脳を局所的に刺激し、脳の持つ回復力を最大限に引き出し、集中的にリハビリテーションを行います。適応基準の例として、上肢の運動麻痺の場合は手を握ったり開いたり、指の曲げ伸ばしができること、下肢の運動麻痺の場合は補助具や装具の使用有無にかかわらず、介助なしで10m程度歩行できることがあげられます。

② ボツリヌス療法:筋肉を緊張させている神経の働きを抑える作用がある薬を使用することで、筋肉の緊張をやわらげ、リハビリテーションの効果を出しやすくする治療法です。対象としては、脳卒中による筋緊張の亢進に伴う異常姿勢、痛み、関節可動域制限、歩行障害や日常生活に支障を与えている方です。

※詳しい適応基準については、①、②ともに事業団ホームページや下記QRコードからご確認ください。

ニューロリハビリテーション外来の流れ



事業団ホームページ
(<https://www.nagoya-rehab.or.jp>)



ニューロリハビリテーションのページ





(公財) 東京オリンピック・パラリンピック 競技大会組織委員会帰任報告



公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会(車いすバスケットボール競技スポーツマネージャー)の業務を終え出向解除となり、2021年10月、事務局参事(地域スポーツ振興)として名古屋市障害者スポーツセンターへ戻ってまいりました。

2018年4月から3年半、長期にわたりありがとうございました。また、あたたかく迎え入れていただきました皆さまに感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症拡大により東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が1年延期され、時には開催可否についてクローズアップされたこともありましたが、IOC、IPC、東京都、組織委員会ならびに関係機関との連携のもと、無観客ではありましたが開催することができました。

日々、試行錯誤、暗中模索ではありましたが、多くの仲間と3年半積み上げてきた成果や想いを実行できホッとしています。また、開催にあたっては多くのフィールドキャスト(大会ボランティア)の皆さまにご協力いただき、大会を支え盛り上げていただきました。多くの方々の力の結集によって成し遂げられた東京オリンピック・パラリンピック競技大会であったと感じております。

私は、1989年4月、名古屋市総合リハビリテーション事業団に入職しました。その後まもなく車いすバスケットボールと出会いました。今回、その活動を通じた巡り合わせの中で初めて、パラリンピックという世界規模の競技運営責任者として参画することとなり、不安と楽しみとが入り交じり、

単身で東京へ向かいました。

今、組織委員会へ出向させていただいた3年半を振り返りますと、その凝縮した貴重な時間全てが良き思い出となっています。海外への競技大会視察、ヘトヘトになりながらも進む時間と闘いながらの説明資料作り・調整作業、計画を実行に移すための予算確保、そして新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた競技運営準備。睡眠時間もままならぬ過酷な日々の連続の競技期間中。同じ目標を持った仲間と過ごした時間と経験は私にとって宝物となりました。今後の人生、そしてこれからの仕事の糧にしたいと思っております。

これからは名古屋市総合リハビリテーション事業団の一員として、この3年半で培ってまいりました経験と新たに出会った多くの仲間、そしてネットワークを生かし、同じ目標を持った職員と共に、この地域における障害者スポーツの振興に努めてまいりたいと思っております。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。なお、組織委員会在職中に「東京2020組織委員会スタッフ奮闘記」として業務活動内容を取りまとめたいただいた動画がございますので、ご参考までにご覧いただけますと幸いです。



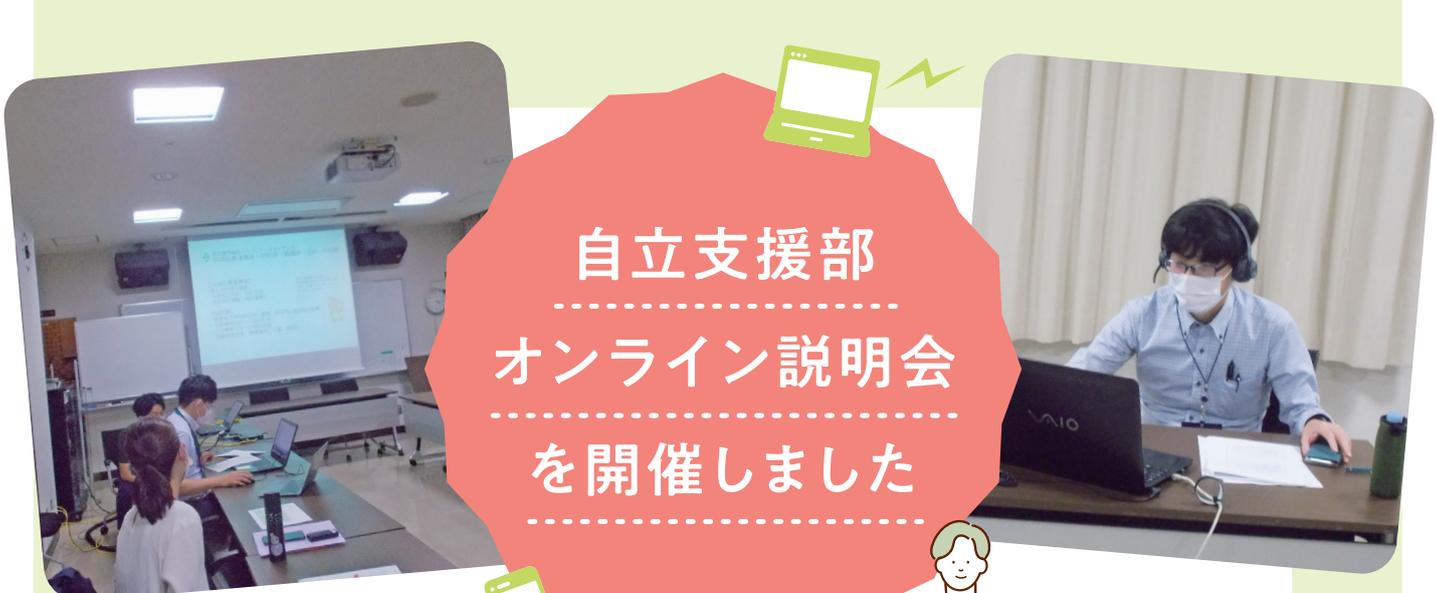
▲国際車いすバスケットボール連盟から競技運営に携わったメンバーへのお礼の盾と東京2020マスコット



◀メイン会場となった有明アリーナ

YouTube 【東京2020スタッフ奮闘記】

- Vol.1 「ヘッドコーチとしての経験を東京2020大会、その先へ…」 小川 智樹(車いすバスケットボールスポーツマネージャー)
<https://m.youtube.com/watch?v=elsJf1CR6ok>
- Vol.2 「コーチではなく、運営スタッフとして選手を受け入れる」 小川 智樹(車いすバスケットボールスポーツマネージャー)
<https://m.youtube.com/watch?v=z4-Nt953gt0>
- Vol.3 「3年半の集大成。みんなでゴールにシュートを打ちたい」 小川 智樹(車いすバスケットボール スポーツマネージャー)
<https://m.youtube.com/watch?v=rC-3MaHkmYk>



自立支援部 オンライン説明会 を開催しました

令和3年10月12日(火)に障害者支援施設(生活支援部門、視覚支援部門、就労支援部門)の取り組みや事例の紹介、施設見学を行う説明会を開催しました。毎年開催している説明会ですが、去年はコロナ禍のため中止となり、今年は初めてオンラインでの開催となりました。

当日は障害福祉サービス事業所や医療機関、学校や労働関係等、幅広い分野から38名の方にご参加いただきました。施設見学では職員がスマホを持って施設内を移動しながら説明し、オンラインでも臨場感を持って見学していただけるよう工夫しました。

参加者アンケートの結果では、説明会の内容について多くの方から「大変良かった」「良かった」との回答をいただき「実際のプログラムや支援の内容がよく分かった」「実際に見学に行ったように施設の様子がよく分かった」との感想もいただきました。



職員が
スマホを持って
移動しながら説明



また「次回は実際に見てみたい」や「県外からの参加や時間の制約を考えれば、オンラインでの説明会は参加しやすい」という意見もいただき、来年度以降もより多くの方に当リハビリセンターのことを知っていただける機会となるよう、開催方法の検討や内容の充実を図っていきたいと思います。

今回のような形での開催は年1回ですが、令和2年度から医療機関との連携強化を目的として、医療関係者向けに毎月小規模な見学会（定員10名）も開催しております。1月と3月はそれぞれ就労支援部門、生活支援部門がメインとなり、ミニ研修会も行う予定です。当リハビリセンターのホームページからお申し込みいただけますので、ぜひご確認ください。



令和3年
8月・9月
開催

視覚支援課オンライン見学会
についてはこちら

Check!



思いの丈をYouTubeにのせて

瑞穂区障害者基幹相談支援センター(以下「基幹センター」という)は、令和3年3月にYouTubeチャンネル「みずほつきほch」を開設しました。令和3年11月末現在で7本の動画を公開しており、今後にもアップを控えている動画もあります。

コロナ禍では世の中のさまざまな活動が取り組み方の変更を求められました。基幹センターも然り、これまで取り組んできたことをストップさせないためにはどうするか…その答えが動画の発信です。

基幹センターの使命の一つに瑞穂区の「地域づくり」があります。地域づくりといっても幅広く、いろいろな取り組みがありますが、その中でも基幹センターが力を入れていることは「障害理解の普及啓発」です。今社会は、障害のあるなしにかかわらず、地域で暮らす人々がお互いを理解し合い、多様性を認め合って、共に生きていこうという方向に動いています。『さらに障害の理解が広まり、隣人への関心が高まれば、置いてけぼりの障害のある人が減るに違いない! よーし、気にしてくれる人を増やそう! オール区民によるアウトリーチを目指そう!』基幹センターはそんな目標を掲げてこの数年取り組んできました。

瑞穂区社会福祉協議会や区役所福祉課との連携により、区内の公立小中学校の福祉教育への参加や、私立高等学校生のボランティア、大学生のインターシップへの関わりなど徐々に活動が広がる中、平成の終わりから令和にかけては、住民レベルでの福祉の最先端にいる民生委員さんとも、かなり関係を築けるようになっていました。「民生委員さんともっと関係を深めたい、基幹を知って使いこなしてもらいたい、障害についてもっと知ってもらいたい」そんな思いから民生委員さんにはアンケートへのご協力をお願いしたところ、関心が大きく2つあることが分かりました。一つは、障害のある人が使える相談窓口や福祉サービス。

もう一つは、障害のある人の暮らしぶり。これらを伝える活動を障害のある当事者と一緒に展開しようと計画し、令和2年度は、瑞穂区全11学区の民生委員さんたちの会議を回らせてもらおうと考えていた…そんな矢先にコロナ禍でした。オール区民アウトリーチ計画を止めるわけにはいかない。訪ね回れないならどうする?どうする?…そして行き着いたのが「動画を作って観てもらおう」でした。

動画は、民生委員さんの関心に応えつつ、福祉教育の実践でも活用されるように、コンセプトは「障害の社会モデル」を貫いています。障害を正しく理解してもらいたい。障害をなくすためには、皆がどう行動したらいいのか、動画を観た人がそんなことをちらっと考えるきっかけになるよう意識し、シチュエーションや文言を選んでいきます。動画作りは直接出向けない中での苦肉の策だったのですが、むしろ伝えなかった内容を練りに練って詰め込んで作った結果、より効果的なものになりました。DVDで配布するだけにとどめず、観たいときに観たい場所で、いつでも誰でも観られるようにしよう!と、YouTubeの活用まで計画は広がりました。エリアも視聴者も限定しないYouTubeですから、より大勢の人に視聴してもらえるチャンスが広がります。オール区民どころか、オール人類です。

動画の登場人物として、基幹センター・地活つきみがおかに関係のある障害のある当事者がたくさん協力してくださいました。事業団職員も何人か出演しています。なお、編集作業はプロが行っていますが、撮影や構成は基幹センターの地域支援チームのメンバーが時間をやりくりしてコツコツと取り組んできました。

なかなか見応えのある動画です。
ぜひ皆さん、ご覧ください。
YouTubeのチャンネル登録もぜひお願いいたします!

 YouTube



チャンネル
みずほつきほch



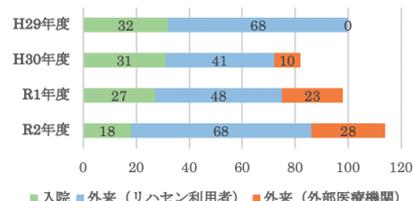
リハビリテーション研究基金 助成事業の成果について



当事業団では、より高度なリハビリテーション技術の研究開発を推進し、市民福祉の向上に寄与することを目的にリハビリテーション研究基金を設けており、皆さまからの寄付金とその運用益で研究事業を行っています。

継続的に取り組んできたテーマの一つに「障害のある方の自動車運転評価」に関する研究があります。障害のある方の運転の安全性を客観的に評価することは重要であるものの、多くの医療機関においては十分な評価が行えていません。また、運転免許センターにおける明確な運転再開の判断基準もないため、医療の立場から障害の特性に応じた客観的な評価を行うことが重要です。当リハビリセンターでは、自動車運転シミュレーターを用いて年間約100件の自動車運転評価を実施しています。

運転評価件数



自動車運転評価に関する研究事業は、これまでに5件の助成を受け、多くの学術実績(学会発表17件、講演会9件、論文4件、書籍分担執筆2件)を発表してきました。このたび、平成28年・29年度助成事業「映像記録型ドライブレコーダーを用いた実車運転評価法の検討」に関する論文が海外査読付き雑誌に掲載され、研究事業代表者(作業療法科長 田中創)が博士(リハビリテーション療法学)の学位を授与されました。研究活動によって科学的に裏付けされた方法を活用し、当事業団では障害のある方の自動車運転に関連する事業を段階的に拡大しています。

平成28年11月からは、愛知県公安委員会からの委託業務の受け入れを開始し、一定の病気に罹患している方々の臨時適性検査に係る愛知県公安委員会の

認定医を当リハビリセンター医師が担当しています。

平成30年7月からは、外部医療機関からの自動車運転評価依頼の受け入れを開始し、運転評価の依頼件数は増加傾向です(平成30年度10件、令和1年度23件、令和2年度28件)。

また、令和3年7月からは「なごや高次脳機能障害支援センター」開設に伴い、高次脳機能障害のある方への運転評価・相談体制を充実化しています。

研究で培った能力や経験を日常業務に応用させていくことが重要であり、専門分野に秀でた“スペシャリスト”を育成すると同時に、事業を完遂するためのプロジェクトマネジメント能力に磨きをかけた人材を育成できるよう、今後も事業団全体で研究活動に取り組んでまいります。

リハビリテーション研究基金

市民の皆さまからの寄付金を積み立てています。障害のある方一人一人の自立と社会参加をすすめるため、その積立金から発生する利子をもとに研究を行っています。

基金の趣旨をご理解いただき、ぜひ皆さまのご協力をお願い申し上げます。

受付・お問い合わせ先:総務部 業務課

事業団職員大募集

「私たちと一緒に働きませんか」



▶ 現在募集中

正規職員

看護師、作業療法士

随時
募集中
です！

職場見学
大歓迎

嘱託職員

嘱託栄養士、調理補助、
嘱託作業療法士、生活支援員補助（夜勤専従）

お問い合わせ先

社会福祉法人名古屋市総合リハビリテーション事業団

総務部総務課 採用担当

〒467-8622 名古屋市瑞穂区弥富町字密柑山1番地の2

電話番号 052-835-3811

最新の募集情報、待遇等の詳細は事業団ウェブサイトをご参照ください。

正規職員募集
についてはこちら



嘱託職員募集
についてはこちら



事業団ウェブサイト

<https://www.nagoya-rehab.or.jp>

事業団公式HP▶



事業団公式Twitter

名古屋市総合リハビリテーション事業団@公式

▶ @nagoya_rehab

事業所案内

- ・名古屋市総合リハビリテーションセンター
 - ・福祉スポーツセンター
 - ・障害者就労支援センター めいりは
 - ・なごや高次脳機能障害支援センター
- 〒467-8622

名古屋市瑞穂区弥富町字密柑山1番地の2
電話：052-835-3811 FAX：052-835-3745

名古屋市障害者スポーツセンター

〒465-0055
名古屋市名東区勢子坊二丁目1501番地
電話：052-703-6633 FAX：052-704-8370

なごや福祉用具プラザ

〒466-0015
名古屋市昭和区御器所通三丁目12-1
御器所ステーションビル3F
電話：052-851-0051 FAX：052-851-0056

- ・瑞穂区障害者基幹相談支援センター
- ・地域活動支援センター つきみがおか

〒467-0035 名古屋市瑞穂区弥富町月見ヶ岡5
NTT西日本八事ビル1階
電話：052-835-3848 FAX：052-835-3743